



4月のコラム ～ コロナショックの先にあるもの

例年なら、日増しに暖くなる陽ざしや咲き揃う花、新しく始まる学校生活、初めての仕事等にウキウキする春。今は、目に見えない小さな小さな生物が、とてつもなく大きな試練を私たちに与え気持ちが沈みがちです。

防護服の代わりにゴミ袋を着て、本来使い捨てのマスクを洗って使い自らの感染のリスクを冒しながら命がけで戦ってくれている医療従事者の方々には、本当に頭が下がります。また、手づくりマスクを作ったり、地域の食材を生かした健康的なお弁当を医療機関に届けたり、元気になれる情報を発信したりと、自分たちができていることを実践されているすべての方々、それぞれの技術を生かすべく医療機器などの製造に支援の手を伸ばしてくれている企業・・・この状況下で懸命に今できることに頑張ってくれている方々に心から感謝します。

一方で、自分を律することはなかなか難しいのだと再認識することもあります。パチンコ屋の前のできる朝の行列、立入禁止の海岸に多くの人が柵を乗り越えて入り、潮干狩りをしているといった光景・・・楽しみにしていた旅行を控えたり、営業できるお店を閉めたりするといったこと。「しよう思えばできること」を「自らの意思でしない」ために、想像力と他者への思いやりを持ちたいものです。

思い起こせば、阪神大震災のときは、選択の余地なく突然、家も職場も失った人が大勢いました。店を閉めるとか開けるとか選ぶことさえできませんでした。補償もありませんでした。でも立ち直ることができました。25年経った今も後遺症がないとは言えないのですが、人が生きていさえすれば、経済は立て直すことはできるのです。まず、すべきなのは、生活の不安なく安心して家にいることができるようにすること。

一体どこを向いているのか・・・私たちは、「国民の命と生活を守る」という根本にある使命を果たそうとしない政治を変えることも、国を動かすこともできるのです。

新型コロナウイルスのせいで失うものは多いですが、これで得たこと気づいたこともあると思うのです。長引くかもしれませんし、苦渋の決断を迫られている経営者の方もおられると思います。でも、こんな時だからこそ、先を見据えて人類が本当に大切にしなければならないものを守り、将来また起こるかもしれない危機にも対応でき、弱い立場の人がよりダメージを受けるようなことのない社会をつくる学びにしたいものです。「人」が一段と成長した新しいステージの社会がくることを願って・・・

2020年4月 水田かほる